

# 平成18年度 学校評価書

項目	番号	評価設題	自己評価		外部評価		今後の学校改善に向けて (学校の受け止め方)
			評価に対する考え	評価	評価に対する説明		
①教育課程・学習指導	1	教育目標、重点目標、重点施策等が適切に設定され、保護者や地域住民に分かりやすい。	本校の実態を踏まえた内容である。重点目標や施策の具体的な内容について、学校だよりや、PTA総会等で理解を求めた。より分かりやすい表現と提示の仕方や回数等の工夫が課題である		学校より配布される学校だよりやPTAだよりなどでわかりやすく説明されている。今後、さらに工夫が望まれる。	文字サイズやレイアウト、内容を考えてより読みやすくし、回数等も工夫・改善していく。	
	2	教育課程の計画的実施に努め、標準授業時数の確保が十分なされている。	年度当初に的確な教育計画を作成し、週計画に基づいた教育活動の実施、点検をした。教務から提出される週計画に基づき、実施時数計算が速やかにできる全学年統一の週計画表により、確実に時数の確保ができた。		標準時数が確実に確保されている。	今年度中に来年度の計画を立て、年度当初からのスムーズなスタートを図るとともに、定期的にチェックにより、時数確保が確実になるように取り組む。	
	3	基礎・基本の定着をめざした取組等により、確かな学力が身につけている。	特に、基礎学力の定着をめざし、「ぐんぐんタイム」、「ゆるぎタイム」、また、各学年での継続した取り組みを実施してきた。2学期末に計算・漢字テストを実施したが、全校が80%の達成には至らなかった。今後、反復練習を継続的に進めるような工夫をする必要がある。		計算・漢字テストで全員が80点以上達成をめざし、その後継続した取り組みにおいて、全員到達することができたことは評価できる。保護者の協力を得ながら、家庭学習のさらなる充実を望む。	計算・漢字等の基礎学力の向上への取組の定着を図る。	
	4	児童生徒の学習意欲を喚起し、授業の改善・工夫に努めて分かりやすい授業を行っている。	子どもの実態を把握しながら、教材研究に取り組んでおり、80%の子も達が勉強が分かって楽しいと言っている。教材研究の時間確保が難しい時が多いが、職員間での情報交換や授業交流や先進校での実践を学ぶなど自己研鑽に努めながら、分かる授業を工夫していきたい。		国語力向上モデル事業での国語科を中心とした指導法の向上に努めた。子どもの反応もよく、この成果をすべての授業に広めてほしい。	国語力向上モデル事業で得られた手法を各教科等で継続活用し、教師相互の授業参観や交換授業などを通して、わかる授業を実践し学力の充実を図る。	
	5	縦割り活動や学級活動の工夫をして、豊かな人間関係や社会性が生まれるよう努めている。	運動会の縦割り活動、体育委員会を中心とした縦割り遊び、縦割り班の「言葉のウォークラリー」などを実施した。異学年でのふれあいができ、得ることが多かった。児童会活動や学級活動を充実させるための取組の検討が必要である。		全体として、児童の意欲をうまく引き出せている。集団が少人数なので、できるだけ多人数での活動が望まれる。	年間を通じた全校縦割り活動や異学年交流の機会を増やし、児童会活動や学級活動を充実させる。	
	6	児童生徒の興味・関心や習熟の程度に応じて、指導体制や指導方法を工夫し、きめ細かな指導を行っている。	小テストをしたり、細かな観察をしたりして、児童の実態を把握し、習熟度別のグループに分けたり、個に応じた指導の工夫をしたりしている。少人数の学級に関わらず、個人差が大きく、担任一人での指導が難しい単元もある。限られた職員の中での体制づくりには限界がある。	B	習熟度別のグループ分けの方法など課題が残る。アンケートによると、少人数指導は効果があると考えられる。学習意欲を高め、発表できる力をつける取り組みが望まれる。	全職員で協力し合いながら、小テストや細かな観察を通して児童の実態を把握し、習熟度別や個に応じた指導の工夫を行う。	
	7	外部人材を積極的に活用し、授業に生かしている。	学校行事や各学年の授業に保護者や地域の人材を活用した。学習においては、活動の補助的な役割が多かった。地域人材の発掘と人材確保に努め、活用内容を考えていく必要がある。児童が、受け身の活動から自発的な取り組みに変わっていくようにしていきたい。		多くの外部人材が得られている。今後は、地域への発信を工夫し、学習場面に応じた人材をさらに確保してほしい。	より多くの外部人材の発掘のための努力をしながら、外部人材の活用を推進し、変化のある学習を展開したい。	
	8	朝読書の推進や町立図書館とのネットワーク活用等により、進んで読書し、読書活動が定着している。	読書活動に関しては、様々な工夫した取り組みができていく。しかし、主体的な読書や、本を読む習慣の定着については、読破した冊数の違いにも現れているように、個人差が激しく、家庭とも連携をとりながら読書好きな子どもの育成を図る必要がある。		町全体の読書活動の意義は大きく、児童一人ひとりの読書活動に確かな効果が出ている。家庭や地域への啓発が課題である。	読書好きな子どもの育成を図るために、賞詞による励ましを行ったり、ボランティアを活用した読書に親しむ活動を行ったり、PTA活動の工夫を図ったりして、家庭や地域を巻き込んだ取り組みを進める。	
	9	道徳の授業の計画的な実践、家庭との連携により、子どもに命・感動・畏敬・規範意識を身に付けさせるよう努力している。	道徳の授業を出張のない水曜日に位置づけ、計画的に授業を実践している。学習参観日に全校が道徳の授業公開をしたり、学級便り等で道徳の授業実践について報告をしたりして保護者との連携が図れた。資料の発掘をしたり授業改善に努め、規範意識を身に付けさせたい。		道徳の授業改善など、こつこつと地道な実践がなされている。家庭との連携を深め、道徳教育が浸透するよう努めてほしい。	道徳の学習の水曜日実施、全学年での学習公開を継続していく。	
	10	食に関する指導計画に基づき、児童・保護者への食の大切さを啓発し、望ましい食習慣づくりに努めている。	今年度初めて食育の全体計画を作成し、残さいゼロの日、保護者への啓発のための食育便りの発行、祖父母の招待給食、創立感謝祭での豚汁作り、夏休み親子クッキング等を実施できた。好き嫌い、食事のマナー、朝食の取り方等、学校と家庭との連携を考えていく必要がある。		全体計画の作成については評価する。保護者に対しても食育教育の大切さについて、ますます啓発に取り組んでほしい。	食育は学校だけで行えるものではないので、懇談会や参観、通信等を活用してPTAと連携して取り組む。また、自分で調理する活動なども取り入れ、食に関心を持たせる。	
	11	伝え合う力をはぐくむために、授業改善と言語環境づくりに取り組み、あらゆる教育活動を通して国語力の向上に努めている。	国語力向上モデル事業の研究の推進をもとに子ども達の国語力向上のために、職員が一丸となりさまざまな取り組みができた。子ども達の伝え合う力は保護者アンケートにもあるように、話す力は向上したが、聞く力が十分育っていない。継続して向上に努める必要がある。		国語力向上について最も大きな力点を継続して取り組むことによって、成果も本物となる。	国語力向上モデル事業で得られた手法を継続活用し、わかる授業を通して学力の充実を図る。	

# 平成18年度 学校評価書

項目	番号	評価設題	自己評価		外部評価		今後の学校改善に向けて (学校の受け止め方)
			評価に対する考え	評価	評価に対する説明	評価	
	12	天使の活動(病院訪問活動)を中心に、思いやりの心をはぐくんでいる。	58年の伝統を引き継ぎ、保護者や地域の理解や支援も大きい。病院の患者さんとの直接の交流により、子どもたちは、感動と思い合うことのすばらしさを体験できている。天使の活動を中核に各学年での福祉教育の充実をさらに求めていく。		長年の歴史や伝統を今も守り育てていく努力は大変すばらしい。		活動がマンネリ化しないように、年間を通じての活動の流れや、学年の段階を追った指導を再検討するとともに、今後も家庭や地域の協力を得ながら実践を進める。
	13	花の継続的な栽培活動を通して、慈しみの心を育てている。	児童委員会活動を中心として取り組み、FBC総務大臣賞受賞に代表されるように、花づくりの成果は現れている。全校の子どもが花作りにより積極的に関わりたい。時間を確保し、栽培意識の高揚を図っていききたい。		一人一鉢の栽培活動について、一人ひとりがかかわることにより、植物を育てる喜びを味わっているが、さらなる工夫が望まれる。		全校の子どもが栽培活動により積極的に取り組めるように、総合的な学習の時間や生活科、学級活動等のカリキュラムを見直しで実践する。
	14	体験的学習を取り入れ、児童の自発的な学習を進めている。	各教科において、教科書で学習するだけでなく、実物との出会いや地域の施設や自然、人々との交流など積極的に体験学習を取り入れた。体験学習は子どもたちにとって楽しい学習である。計画的に学習活動に取り入れる工夫をしていきたい。		ほとんどの子どもが体験学習に興味をもって臨んでいる。事前、事後の学習にまでふくらみを持たせる計画・立案が望まれる。		体験学習がより効果的な学習になるよう、事前・事後を含めた長期的な計画を立てて学習を展開していく。
	15	児童一人ひとりの人権意識が改善されるように、人権教育の充実を図っている。	乱暴な言葉づかいなど子どもたちの言動には思いやりの心を欠くことが見られる。日常生活の中で日々の指導の積み重ねが大切であると同時に、教師の人権感覚を研ぎ澄ませていくことや、家庭・地域との連携を深めながら、子どもの人権意識を高めることが必要である。		子どもたちの人権意識を高めるために、より一層の力強い取り組みが望まれる。家庭・地域へのはたらきかけも重要である。教員研修などにより、人権感覚を高めていただきたい。		道徳、学級活動を中心として、一人ひとりが認められ、互いに思いやる心や態度を育成する。言葉づかいや礼儀等、基本的な生活習慣の定着に向け、家庭と連携した取組を進める。また、職員研修により、人権感覚を高める。
	16	健康な体づくりのための指導を十分に図っている。	体育や保健の授業の工夫だけでなく、全校活動として毎週水曜日を外で遊ぶ日と決め、体力づくりのための活動を進めてきた。8割以上の子どもが外で遊ぶことができたと回答している。自分の体を鍛え、健康に対する知識をもち、自ら進んで実践できる力の育成に全校で継続して取り組むことが大切である。		新体力テストの結果によると、多くの種目で県平均を上回っている。体力づくりの活動が機能していると考えられる。一層の取り組みを望む。		フリータイムや昼休みにおける外遊びの奨励、年間を通じた体力作りの取組を進める。
	17	友だちとの豊かな人間関係づくりや集団生活へのルールやマナー等が身につくよう指導に努めている。	保護者アンケートで三分の一強の方が子どもにまだまだ身につけていないと感じておられる。学級だけのふれあいだけでなく、異年齢でのふれあいができるようにする計画的な取り組みや、職員みんなで集団での規則を守ることへの徹底した指導が必要である。		アンケートの結果にも表れているように、集団生活へのルールやマナー等が身につくよう徹底した指導が必要である。		異年齢交流の計画的な実践、児童が集団の規則を守ることへの徹底した指導を全職員で継続して行う。
②生徒指導	18	校内教育相談体制を整備し、課題を抱える児童の教育相談を進めている。	教育相談体制が確立し、児童に課題があると判断した場合は、すぐに教育相談部会を開催して対応を検討し、保護者への働きかけを行うことができた。定期的な部会の開催と全職員との共通理解を深めることが課題である。		教育相談体制が機能している。全職員の共通理解に努めてほしい。		子どもを語る会や教育相談部会、長期休業を活かした職員研修等を実施する。
	19	教育相談や個別の指導・支援、関係機関との連携により、不登校児童生徒への適切な対応を行っている。	保護者やスクーリングケアサポーター、ジョイと常に連絡をとり、不登校児童の状況をつかむことができた。保護者をサポートしながら、教育相談機関での継続的な相談を勧めてきた結果、相談を受けはじめた。保護者の支援が課題である。		不登校児童への取り組みは認められるが、さらに、継続努力を願う。		関係機関との連携を図ると同時に、相談体制を充実させる。保護者との連携を工夫し、保護者支援を続けていく。
	20	基本的な生活習慣の育成に向けて子ども達の生活の実態を把握し、家庭と連携して指導を行っている。	「はやね、はやおき、あさごはん」やあいさつ・へんじ、靴そろえ等の定着を中心に、アンケート等での実態把握をし、アンケート結果については、学校からの通信等で保護者に広報し、連携に努めている。機に応じて、育成のために全校的に徹底した取り組みが必要である。		基本的な生活習慣の育成に向けて、保護者との連携をさらに深めてほしい。		生活習慣にかかわるアンケート等を実施し、その結果をもとに指導ポイントを絞り込み、家庭と学校が徹底した取り組みを行う。
③進路	21	自分のよさを見つけ、夢や希望をもって生活しようとする指導を行っている。	自分の良さを発見できない子どもも少なくない。全教育活動を通して自己肯定感を高めると共に、キャリア教育の研修を積極的に行い、系統づけた指導を進めていく必要がある。		キャリア教育の年間計画を作成し、系統的な指導が望まれる。		キャリア教育年間計画を元に、発達段階に応じて望ましい職業間や勤労観を育む指導を行う。
④安全管理	22	学校安全計画等により、計画的に安全を確保する取組を実施している。	計画に基づいて、安全点検、避難訓練、長期休業前の安全指導等が実施できている。マンネリ化に陥ることがないように、危機管理意識の向上を図りながら、危機管理マニュアルの見直し等、さらなる堅固な取り組みを継続することが必要である。		学校安全計画の実施によく努力されている。危機管理マニュアルに基づく、実践的な訓練が大切である。		点検や訓練を確実に実施すると共に、実施後に危機管理マニュアルの見直しを図り、職員全員が危機意識をより高めていく。
	23	不審者による事故防止等の通学路の安全点検を行い、家庭や地域、PTAと連携して安全確保の取組を行っている。	児童と一緒に通学路点検、保護者やスクールガードの方々の協力による登下校、スクールガードリーダーからの指導等を通して、児童の安全を図ることができている。今後、スクールガードの方々と連携の継続が課題である。		通学路の点検や登下校の安全指導は地域の協力の下、充実した取り組みが行われている。		地域・保護者とのより一層の連携を図れるように、定期的な会議や点検活動の充実を図るとともに、学校単独での点検や指導を定期的に行う。

# 平成18年度 学校評価書

項目	番号	評価設題	自己評価		外部評価		今後の学校改善に向けて (学校の受け止め方)
			評価に対する考え		評定	評価に対する説明	
⑤保健管理	24	健康診断の実施により、児童が自己の健康に留意できるように指導している。	各種の健康診断を計画的に実施できた。診断結果に基づき、養護教諭、学級担任、保護者が連携し、子どもが自らの健康を大切にできるように指導に当たっている。ハンカチや鼻紙の携帯、歯磨きの励行など健康生活の基本の定着が課題である。		B	検診結果を活かし、児童への指導も学校と保護者の連携も図られている。個々の課題については保護者との連携を一層進めたい。	健康生活の基本の定着のため、朝の会や帰りの会、学級活動での指導を確実に行うとともに、保護者へも啓発し、学校と家庭が一体となった指導を行う。
	25	日常の健康観察はもとより疾病等の予防に対する指導を適切に行っている。	毎日各学級では、方法を工夫しながら健康観察ができています。特に流行する疾病や季節に伴う疾病、近隣で流行している疾病について、常に後手に回ることなく指導ができています。疾病に対する予防の必要性を子どもに分からせながら、指導の徹底に努める。			健康観察も適切に行われ、結果の処理も適切で、個の指導や疾病の予防に役立てられている。	体育科や学級活動を活用し、疾病に対する予防の重要性を理解させるとともに、実践的な態度を養う。
⑥特別支援教育	26	特別支援教育に対する校内指導体制は整い、個に応じた適切な指導を行っている。	特別支援教育コーディネーターを核に校内指導体制は整ってはいるが、十分に機能しているとは言えない。特別支援に対する教職員の十分な理解のための研修と、個別の指導計画の作成により、限られた人員の中での支援の在り方を探ることが課題である。		B	自己評価にある課題は重いのが、限られた人員の中でよく努力されている。	学期に1回、特別支援に関する研修と対応を協議し、個々の児童の実態に応じた個別の指導計画を見直ししながら支援を行う。
	27	特別な支援を要する児童について、関係機関と連携して、指導にあっている。	特別な支援を要する子どもについて、関係機関との研修会をもったり、保護者の相談について連携をとったりしている。定期的に関係機関と情報交換をしながら、子どもの指導にあたれるようにすることが課題である。			関係機関との定期的な情報交換の機会を作り、指導を行う。	
⑦組織運営	28	効率的な学校運営を図るため、組織の改善が図られ、校務分掌等が十分に機能している。	教職員が少人数のため、たくさんの校務分掌を分担しており、すべての分掌が十分に機能しているとは言えない。校務分掌の精選と学校の重点目標に基づいた機能的な分掌組織を作ることが課題である。		B	教職員が少ないため、多くの校務分掌を抱えて、学校運営に努力されている。組織の改善と校務分掌の精選をさらに工夫されることを望む。	新年度へスムーズに移行できるように、組織の改善と分掌の精選を行う。
	29	個人情報や公文書等の管理を適切に行い、日頃からその取り扱いに留意している。	個人情報管理マニュアルに基づいて、日常的に文書等の取り扱いについては全職員で留意している。勤務時間内で処理できない学級事務等がある場合や、インターネットの取り扱いについて、マニュアルの見直しと適切な方策を考えていく必要がある。			個人情報管理マニュアルが作成され、それに基づいて、日常的に文書等の取り扱いによく留意されている。勤務時間内で処理できない場合にも、個人情報や公文書の管理は適切に行うよう努めてほしい。	個々の教職員の危機意識をより向上できるように、学期に1回程度研修を行うとともに、個人情報の管理を徹底するよう互いに声かけを行う。
⑧研修	30	児童生徒の学習意欲を高め、確かな学力の育成に向けて、指導方法等の授業改善を計画的に実施している。	授業改善のために、校内研究を中心に、今年度は国語力向上のための取り組みをしてきた。後半は各学年で授業交流や参観をしながら授業改善に取り組んでいる。全校で高め合いながら子どもに確実な力をつける工夫を重ねたい。		B	国力向上モデル事業の指定を受け、全職員が一丸となって研究を重ねてこられたことは、大きな成果があったと考えられる。子どもの確実な力として、定着するよう、継続した研究を重ねてほしい。	子どもに確かな力をつけるために、様々な授業改善の取り組みを今後も積み重ねていく。
⑨保護者・地域住民等との連携	31	保護者・地域住民の意見を聞いたり、協力を得たりしながら学校運営を行っている。	行事実施終了後や学期毎のアンケートを実施して、保護者や地域の方々の意見を聞き、その後の活動に生かすことができている。子どもたちは地域の先生と学ぶことが大好きである。各種のボランティアの方々の協力により、学校運営がスムーズになっている。		B	保護者の意見を聞き、相談にも対応できる体制は整っているが、地域の声は十分吸収できていないと思えず、今後の工夫と努力がほしい。地域への更なる参加を呼びかけ、人材バンクとして効果的活用にも努めてほしい。	外部評価や行事実施後のアンケートにより様々な方々の意見を聞き、その後の活動に生かす。より多くのボランティアを求め、学習に変化を持たせていく。
	32	授業や行事等を保護者・地域に公開し、学校情報を広報誌やHP等を活用して積極的に発信している。	学習参観や学校だより、学級だより等で教育活動の取り組みについて公開に努めてきた。より多くの地域の方々に本校の教育について理解してもらうために、HPの活用を推進することが必要である。			学校情報の公開は適切に行われているが、保護者、地域住民に学校開放をすすめ、自由に参観できるようにされたい。HPの適時更新は必要である。	保護者の意見や要望に応じた学習公開や校報の発行、HPの充実と更新を行い、常に新しい情報を発信する。
	33	保・幼・小・中の校園が次代を担う子ども達の健全育成に向けて連携を取り組み、円滑な連携に配慮している。	保・幼・小・中の連携が大切であることを理解しながらも、時間を生み出すことが難しい状況である。例年実施している連携の時間を確保することに終わっている。年度当初から、連携の計画をたて、スムーズに連携を深めていくことが課題である。			連携の重要性を認識し、保・幼・小・中相互の情報交換により、恒常的な取組に終わることなく、明確な目標のもと進めてほしい。	保・幼・小・中の連携、特に教師同士の情報交換を行えるようにするとともに、児童相互の交流の場を多く設け、子どもを通して話し合いを深める。
⑩施設・設備	34	施設・設備の点検を定期的に実施し、改善や補修等を図っている。	子どもたちが安心・安全にらせるように、毎月、校務分掌による安全点検と、事務職員による安全点検を二重に実施している。危険な施設や設備は修繕を進めている。校舎が建築されてから約二十年になり、改善や補修が必要になってきている。		B	点検は点検規準に基づき定期的に行われ、二重チェックされている。修繕・補修状況まで確認できている。但し、水回りの故障が目立つ。また、劣化した物の対策も早めに立ててほしい。	施設・設備の点検を定期的に確実にを行うとともに、町教委との相談を迅速に行い、不良箇所をなくしていく。